

学道一如

発行 小樽双葉高校
生徒会通信
2024年6月18日
第17号

多喜二の視点で小樽を深掘り

没後91年 記念のつどい

6月1日、マリナーホールで「多喜二祭」が開催された。没後91年目の記念のつどいは、市民による構成劇と記念講演の2部構成だった。小林多喜二の愛してやまなかった小樽、「北海道の心臓と呼ばれるまち」という表現を残した多喜二の視点をあらためて確認し、小樽の歴史とこれから可能性や課題についても考えさせられるひとときだった。

ガザ地区の出来事

はじめに中井秀紀氏（勤医協病院医師、写真左）が主催者挨拶をされた。その中で、パレス



小林 多喜二 (こばやし たきじ)



1903年（明治36年）12月1日- 1933年（昭和8年）2月20日は、日本のプロレタリア文学の代表的な小説家、共産主義者、社会主義者、政治運動家。日本プロレタリア作家同盟書記長。日本共産党党员。

4歳のとき、一家で北海道の小樽に移住、小樽高等商業学校（現・小樽商科大学）に学ぶ。小樽で銀行に勤めてから、葉山嘉樹、ゴーリキーなどの作品を通じてプロレタリア作家の自覚を持ち、小樽の労働運動にも関わり始めた。

1928年、共産党関係者大檢舉（三一五事件）の小樽を題材にした『一九二八年三月十五日』をプロレタリア文学の機関誌「戦旗」に載せ、翌年には『蟹工船』を発表して評価を得た。また、大農場の小作人と小樽の労働者の共同闘争を描いた『不在地主』（1929年）が原因で銀行を解雇された。その後は投獄と保釈をくりかえし、1931年、非合法の共産党に正式に入党。しかし1933年、警察に逮捕・虐殺された。

（写真は28歳の頃、自宅で）
（ウィキペディアより）

チナ、ガザ地区シリア病院外科部長のブルシェ医師がイスラエル軍により拷問死したことに触れた。命がけで患者を救っていた医師がハマスへの協力を疑われたという。小林多喜二は91年前に特高により拷問死したが、現代においても他国で同様のことが起こっていることを再認識した。「防衛費が増大する中、日本は武力ではなく対話で信頼醸成を」という言葉が響いた。

息子を奪われた母の思い 市民による構成劇

2月20日 小林多喜二のお母さんへ
1933年（昭和8年）2月20日、多喜二は東京築地警察署での特高の拷問により、絶命した。日本プロレタリア作家同盟の同志として活動していた壺井繁治も刑務所に収監されていたが、彼の死を知り、追悼詩を書いた。また、三浦綾子は「母」という作品を通し、軍国主義国家権力の弾圧で息子を殺された母セキの怒りと悲しみを描いた。これらの作品をもとに脚色された、歌と語り、群読による市民による構成劇が上演された。
（下写真）

【母・小林セキさんのことば】
あーまたこの二月の月かきた／ほんとうにこの二月とゆ月か／いやな月こいをいばいに／なきたいどこいでもなけれ／ないあーでもラチオで／しこすたしかる／あーなみたかて／めかねかくもる
（遺品のメモより）



（感想）多喜二の歩み、母セキの深い悲しみが伝わる本格的な劇で心を動かされた。特にセキを演じた石田美樹子さん（中央）の演技が印象に残った。

小樽逍遙 (1) あんかけ焼そば

小樽をぶらぶら歩いてご当地ならではの物、事を紹介するコーナーです。第1回は小樽のご当地グルメ、「龍鳳」のあんかけ焼そばを紹介します。
（大塚翔太）



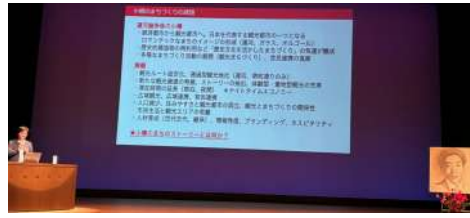
「龍鳳」 稲穂4-4-9 五目あんかけ焼そば

2玉の大盛り 味変で最後まで美味しく

駅から徒歩10分の「龍鳳」、ケンミンショウや千鳥の相席食堂でも紹介された人気店です。大食いのアンジェラ佐藤やみのもんた、まいうーで有名な石塚英彦らが来店しています。
一人前が2玉という大盛りで高校生などに沢山食べてもらいたいという意図があったらしいです。
今回食べた五目あんかけ焼そばは、椎茸や白菜といった野菜類のほかにはうずらの卵、豚肉、エビなど様々な具材が入っており、とても量が多く感じました。しかし、あんのおかげで冷めないのが、最後まで美味しい。端にある辛子や卓上にある調味料などで味変もできるので、量が苦にならず、美味しかったです。

記念講演

北海道の「心臓」と「民の力」
多喜二の見た小樽 高野宏康氏
小樽商大客員研究員・歴史民俗資料学博士
地域レジリエンス株式会社代表取締役



かつて、多喜

二は「小樽は人

口15〜16万の、

街並みが山腹に

階段形に這い上

がった港町で、

広大な北海道の

奥地から集まっ

てきた物産が、

そこから又内地

へ出て行く謂わ

ば北海道の「心

臓」みたいな都会である」と表現し

た（「女人芸術」1932年1月号

「郷里の顔」より）。

その背景には小樽にやってきた様々

な人々の「民の力」があり、小樽の

街を発展させ、衰退した時期にも街

の再生を支えてきた歴史がある。

小樽の日本遺産のタイトルは「北

海道の「心臓」と呼ばれたまち」で

ある。高野氏は多喜二の視点から日

本遺産を深掘りし、小樽のまちづく

りの可能性と課題について語られた。

日本遺産認定を目指して

日本遺産は、地域の文化遺産

を活かして、地元を活性化する、

それをストーリーとして認定す

るもので、地域の魅力をブラン

ド化する役目、シビック・プラ
イドを醸成する働きがある。昨
年は小樽運河建築百年を祝う催
しがあり、構成文化財の一つで
ある旧北海製缶第3倉庫のライ
トアップなどがなされた。
日本遺産認定は今年審査され
るが、認定を求める背景には、
小樽市の人口減や観光滞在時間
の短さといった課題がある。市
民にとって住みやすい街、そし
て観光都市としての魅力を磨く
ことを両立させる狙いがある。
この認定を目指す中で「どんな
まちを作っていくか」の議論が
市民の中でなされることが望ま
れている。

秋田から移住しパン屋営む

多喜二のこの文章は2019
年に歴史文化基本構想の中で引
用されている。多喜二は秋田県
に生まれたが、4歳のときに一
家で北前船の寄港地であった小
樽に移住し、一家は叔父のつて
でパン屋を開いた。当時、小樽
には大勢の港湾労働者がいて、
パンの需要があり、店は繁盛し
たようだ。小樽市は日本遺産

「炭鉄港」（空知の石炭、室蘭
の鉄、小樽の港）の認定自治体
の一部でもある。多喜二の親が
築港の若竹町で営んだ「三つ星
パン」の支店にはタコ部屋労働
者も来たというが、分け隔てな
く対応したという。

小樽のストーリーと多喜二

日本遺産候補地域「北海道の
心臓と呼ばれたまち」のストー
リーには次の4つの要素がある。
①港と鉄道（大動脈によるゴー
ルドラッシュ。石炭が港から運
び出された。）②金融（経済の
血液、金融が生んだ北日本随一
の経済都市）③運河保存運動
④観光都市へ

「天狗山からの眺望は北の方
は海、三方山に囲まれ」と多
喜二は記している。また、富岡
町から市街地を臨むと「階層化」
が見えるとも。北前船の船主で
あった西谷家は5代目と文化や
芸術を愛し、社会問題に関心が
深かった6代目との間に相克が
あったという。6代目は画家の
中村善策を支えた。中村氏は多
喜二の友人であった。

日露戦争後、南樺太との貿易
が盛んになり、大手銀行が立ち
並びビジネス街ができた。この
頃、多喜二は小樽商大に入學す
る。当時、日本郵船小樽支店、
料亭、ホテル、商工会議所など
が建設され、現在も歴史的建造
物として活かされている。多喜
二は北海道拓殖銀行に就職する
が、その建物は現在、似島美術
館になっている。文学では同人
誌「クラルテ」を創刊、この頃、
田口タキと出会い、身請けして
いる。映画館でチャップリンの
映画を見たり、喫茶「越治」や

「シベリア」で仲間と文学活動
や労働運動を展開した。192
6年（大正15年）には小樽第1
回メーデーに参加し、港湾争議
の演説会を支えた。

この頃、小樽のインフラの骨
格ができてきた。北防波堤、小
樽公園、奥沢水源地、小樽運河、
倉庫群などである。北海製罐第
3倉庫は多喜二の『工場細胞』
のモデルになった場所で、近代
的な工場が労働者を歯車のように
働かせる様子が描かれている。

『東俱知安紀行』は山本懸蔵の
選挙応援の様子が描かれた。
『蟹工船』は多喜二の名声を確
立させた小説である。『不在地
主』は磯野小作争議を扱い、こ
れによって拓殖銀行を解雇させ
られた。『転形期の人々』（未
完）は階層化された小樽が描か
れ、運河のほとりの労働者のざ
わめきが聞こえてくる作品だ。

多喜二は志賀直哉の作品に傾
倒し、一度会いに行ったことが
あった。志賀直哉は多喜二の死
に触れ、「実に不愉快。一度き
り会わぬが自分は小林よりよき
印象を受け好きなり アンタン
（暗澹）たる気持ちになる、不図
（ふと）彼等の意図ものになるべ
し」という気がする。」と書いた。

運河保存運動から観光都市へ
戦後、小樽は斜陽化し、港は
さびれ、60年前には運河を埋め
立て、道路建設に復興の期待が
寄せられていた。しかし、運河

保存運動が市民の間で高まり、
論争に10年の歳月が費やされた。
結局、運河は半分埋め立てられ
て残され、現在に至っている。
だが、その論争が小樽を観光都
市として民の力により再生させ
る原動力ともなった。小樽は歴
史を活かすまちづくりの全国の
さががけとなったのだ。

文化と観光の「心臓」のまちへ
歴史と文化を活かしたまちづ
くりの機運が市民と行政の双方
に醸成されてきた。そこに若者
も参加していることが心強い。
小樽サマーフェス2022では
銀行街をライトアップし、運河
百年プロジェクトでも若い世代
の活躍が見られた。最近では旧
北海製缶第3倉庫（1924年
築）の利用について議論されて
おり、今後どう活かすが注目
される。昨年10月には全国まち
なみゼミ小樽大会が開催された。
オタルネクスト100（2024年
から）では堺町商店街やJC
（青年会議所）のメンバーが人
口問題などの社会問題を幅広く
議論している。

まちづくりの可能性と課題
多喜二の視点によりサブストーリー
を深掘りすることで、小樽の光と影、
発展と矛盾が浮き彫りになってくる。
現代の「民の力」とは、闘いや抵
抗の現代的な形態とは何か。多喜二
の軌跡と作品は小樽の可能性と課題
の発見への示唆に富む。多喜二の観
察力、表現力の的確さに脱帽する。